

芝公園だより

◆ 2025年6月21日から7月20日までの間における送付文書や会議等の開催状況等についてお知らせします。

2025年 6 月

6月25日

▶令和7年度第1回名誉・倫理諮問会議

令和7年度介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰 被表彰候補者の推薦について検討、令和7年度公益社団法人全国老人保健施設協会表彰 被表彰者の審査

6月27日

▶『介護施設職員の転倒リスク研究』(職員向け調査)への協力施設推薦のお願い(全老健第7-78号)

支部長あてに送付

▶令和7年度第6回正副会長会

当面の諸問題について検討

▶第14回定時社員総会

付議されたすべての議案について可決・承認(本誌p.40に掲載)

6月28日

▶第34回日本老年学会総会 合同シンポジウム(主催:日本老年学会)

標記シンポジウムに東憲太郎会長がシンポジストとして登壇

6月30日

▶第122回社会保障審議会介護保険部会(厚生労働省)

標記部会に東憲太郎会長が委員として出席

▶e-roken <第503号> 機関誌『老健』7月号を発行しました

登録会員、登録申込者あてに配信

▶e-roken flash 定時社員総会を開催

登録会員あてに配信

2025年 7 月

7月1日

▶「令和7年6月末日現在公益社団法人全国老人保健施設協会正・準会員加入・申込状況等の送付について」(全老健第7-83号)

役員、支部長あてに送付

▶令和7年度第1回介護保険施設等の特定行為研修周知事業班会議

事業概要や役割について報告後、今後の対応等について検討

7月2日

▶災害対応に係る保健医療福祉関係団体連絡会議(厚生労働省)

標記会議に山野雅弘理事が福祉関係団体として出席

7月3日

▶「老健施設のトラブル防止と発生時対策、早期解決に向けて～全老健事故検討会からの発信 2025～同時開催:全老健正会員用団体保険制度 2025年度募集・制度活用説明会～『利用者治療費用補償特約』と『賠償事故・示談交渉支援サービス』で早期円満解決を～」(全老健第7-87号)

会員、支部長あてに送付

▶e-roken flash 共催セミナーのご案内～事故検討会からの発信～

登録会員あてに配信

7月4日

▶令和7年度第1回学術委員会摂食嚥下ステートメント検討事業班会議

令和6年度老健事業の結果報告後、今年度の分析作業および追跡調査等について検討

7月7日

▶令和7年度介護老人保健施設利用者等に対する急変時等の治療方針に関する意思決定支援にかかる調査研究事業第1回班会議

令和6年度老健事業の結果報告後、令和7年度の調査項目等について検討

7月10日

▶第24回九州ブロック介護老人保健施設大会
with熊本(主催:公益社団法人全国老人保健施設協会九州ブロック、一般社団法人熊本県老人保健施設協会)

熊本県内にて開催された標記大会に東憲太郎
会長が出席、講演

▶宮城県老人保健施設協会法人設立祝賀会(主
催:一般社団法人宮城県老人保健施設協会)

宮城県内にて開催された標記会合に平川博之副
会長が出席

7月11日

▶「介護現場の職場環境・生産性向上に向けてデジ
タル中核人材の育成が急務!!『老健施設向けDX
推進リーダー育成講座』【オンライン研修】のご案内」(全老健第7-88号)

会員、支部長あてに送付

▶令和7年度第7回正副会長会

当面の諸問題について検討

7月14日

▶『『2024年度職員基礎研修会』【Webによる研修】
の開催について(ご案内)』(全老健第7-65号)

会員、支部長あてに送付

▶『『2024年度中堅職員研修会』【Webによる研修】
の開催について(ご案内)』(全老健第7-66号)

会員、支部長あてに送付

7月15日

▶e-roken <第504号>各種研修会申込受付中!

登録会員、登録申込者あてに配信

▶e-roken 全国大会 山口flash 演題登録締切1週
間前です!

登録会員あてに配信

7月18日

▶令和7年度第2回事故検討会

事故事案について検討

▶一般社団法人日本リハビリテーション病院・施設
協会令和7年度第1回理事会

標記理事会に東憲太郎会長が理事として出席

2025年7月の正・準会員加入状況は、全老健ホームページでご確認ください。



新事務局長の就任について

7月1日より、木村晴行が全老健事務局長の任にあたることとなりました。

以下に略歴を紹介します。

木村 晴行 きむら はるゆき

1964年8月生まれ。

国立高崎病院、厚生労働省(医政局、保険局、医薬局、障害保健福祉部等)、国立病院機構、地域医療機能推進機構などに勤務。



第14回

定時社員総会開く

全老健は6月27日、都内で第14回定時社員総会を開催した。東憲太郎会長は、骨太の方針2025に書かれた賃上げや物価高騰対策を「画期的」と評価した。

骨太の方針が来年度予算に反映されるよう尽力を

冒頭、東会長が挨拶に立った。「6月13日に骨太の方針2025が閣議決定されたが、過去の骨太は、社会保障に対して非常に厳しい言葉が並べられていた。そのため、前回の介護報酬改定の改定率は1.59%、診療報酬は0.88%だった。前年の骨太が根拠になっているためだ。それで賃上げや物価高に対応しろというのはとても無理な数字。一方で、今回の骨太は画期的なものになった。高齢化の波を抑えるという文言がなくなり、公定価格の引き上げが明記されている。また、来年臨時の介護報酬改定があるが、賃上げについては、高齢化による増加分に相当する伸びに経済・物価動向等を踏まえた対応に相当する増加分を加算する、とある。介護職だけではなくすべての職種で他産業並みに賃上げをすると書いてある」と評価し、来年度の予算編成に反映されるよう全力をあげていくと述べた。

続いて、参与である日本医師会の松本吉郎会長が挨拶に立った。「医療や介護や福祉がバラバラにやっていたのでは国政には届かない。私たちの力を一体化して訴えていかないとならない。骨太の方針はまだ絵に描いた餅の状態」と、日本医師会と全老健の一致団結を訴えた。

議案は、第1号議案「令和6年度事業報告案」、第2号議案「令和6年度決算報告案」で、全会一致で承認された。

老健職員の転倒災害調査への協力を要請

報告事項は、①基調報告②全国大会③令和7年5月



31日現在加入状況④代議員・予備代議員、支部及びブロック一覧⑤その他。

基調報告で東会長は、骨太の方針2025が閣議決定するまでの全老健の活動を振り返った。5月8日に「介護現場で働く人々と家族の暮らしを守る集会」と「記者会見」を開き、社会保障分野の全職種の賃上げや物価高騰対応へのさらなる支援を国に要望した。その後、赤澤亮正内閣府特命担当大臣（経済財政政策）と面会の機会があったことを報告。東会長は面会で赤澤大臣に伝えたことについて、「処遇改善することで保険料に影響するかもしれないが、だからといって社会保障分野の職員は賃上げを我慢しろと言えるのか。政府が言う賃上げを伴う経済の好循環に反するので社会保障分野の職員の賃上げも他産業並みにすべきで、そのために保険料が上がるのは仕方ないのではないかとはっきりと申し上げた」と述べた。

その他の報告として、学術委員長の大河内二郎常務理事から、厚生労働省の今年度の老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）による調査研究事業と、独立行政法人労働者健康安全機構と共同で行う「高年齢労働者の転倒災害」の研究への協力を呼びかけた。後者の協力施設については、都道府県支部に対して3施設の推薦を要請する。

昨年行った老健施設職員の転倒発症状況調査では、老健施設で職員等が高齢化しているなかで、転倒が起りやすく、休職が増えている実態が明らかになった。大河内常務理事は、「職員の転倒リスク研究は、労働安全上非常に重要な問題」と協力への理解を求めた。